

阿蘇



阿蘇

目次

美しい季節の装い

阿蘇の四季2
 ◆阿蘇は私の原点 宮崎 美子2

阿蘇くじゅう国立公園

阿蘇地域のプロフィール10
 ◆阿蘇へのアクセス11

阿蘇くじゅう国立公園

阿蘇地域索引図12

3つの情報発信基地

阿蘇の案内役14
 ◆国立公園阿蘇情報センター14

火山を科学する

阿蘇火山博物館で学ぶ15

おらかな草原が広がる

草千里ヶ浜自然探勝路を歩く16
 ◆阿蘇オーブントップバス16
 ◆歩いてみよう 草千里ヶ浜から中岳火口へ17

ダイナミックな噴火口が目前に

阿蘇山上を訪ねる18
 阿蘇山ロープウェー／阿蘇山上神社と西蔵殿寺奥之院／中岳噴火口／火山災害と防災体制／砂千里ヶ浜
 ◆火山ガスの監視体制19

世界有数のカルデラをもつ火山

阿蘇山の誕生20
 ◆阿蘇ジオパークと世界文化遺産登録を目指して20

大観峰から阿蘇カルデラの自然を探る

大観峰景観ガイド22

人々の営みによって守り継がれた

阿蘇の草原24
 ◆阿蘇のあか牛24

南郷谷エリアの情報発信基地

南阿蘇ビジターセンターで学ぶ26
 ◆休暇村 南阿蘇27

さまざまな動植物とふれあえる

阿蘇野草園自然探勝路を歩く28
 阿蘇でバードウォッチング

野鳥図鑑30
 草原性のチョウが豊富に生息

チョウ図鑑31

五感が磨かれるおすすめのコース

阿蘇のウォーキングガイド32
 米塚下園地／地藏峠
 自然案内人とともに歩く

有料ガイドコース33
 北外輪山／免の石
 景色を楽しみながらマイペースで登ろう

阿蘇五岳登山ガイド34
 根子岳／高岳～中岳／杵島岳～往生岳／烏帽子岳

見どころあれこれ

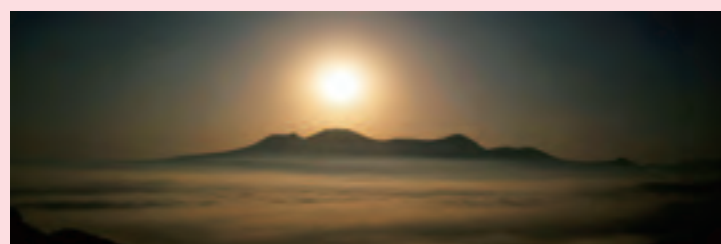
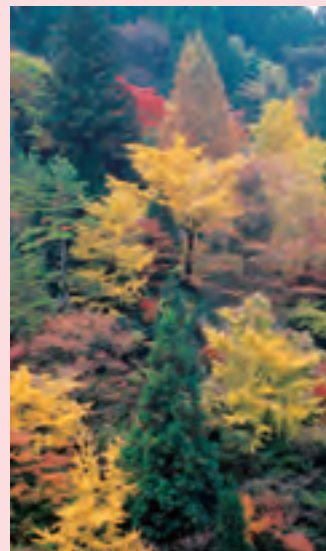
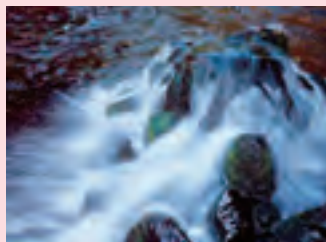
ポイントガイド36
 北向谷原始林(北向山原生林)／鮎返りの滝／数鹿流ヶ滝／菊池溪谷／阿蘇神社／
 国造神社／古閑の滝／月廻り公園とらくだ山／高森湧水トンネル公園／かぶと
 岩展望所／俵山展望所／阿蘇の水源探訪
 ◆阿蘇の観光案内所36
 ◆阿蘇の温泉37

阿蘇の可憐な花たち

花図鑑38
 神話の流れをくむ阿蘇家、その波乱の系譜

阿蘇の歴史44
 広大無辺の山野／阿蘇の神話・伝承／動乱の阿蘇史

主要機関・交通機関・観光問い合わせ一覧48



草千里ヶ浜自然探勝路

（一周約1.5km）
約2時間

緑の大地に草を食むウシの群れが点在する草千里ヶ浜。ここでは自由に立ち入ることができ、車を降りてちょっとした散歩してみよう。単に記念写真を撮るだけでなく、歩くことによって、草千里ヶ浜の自然がより身近に感じられるはずだ。

1 草千里ヶ浜の成り立ち

目の前に広がる草千里ヶ浜は、直径約一キロメートルの、広くて浅い皿の形をした火口跡である。ここは、およそ二万七千年前に阿蘇の中央火口丘群の中で最大規模の噴火を起こした場所である。軽石を上空高くまで飛ばすようなタイプの噴火（フリニー式噴火）を起こし、その結果、カルデラの周辺に広く軽石層を形成した。特に、東と南側では草千里ヶ浜から二十キロメートル以上離れた地点でもこの層を見ることができ、草千里ヶ浜から左右に二つの池が見えるが、最初の噴火の名残が、右手



杵島岳中腹展望所から見た草千里ヶ浜

2 観光乗馬

（西側）の池である。東側の池は、その後、火口内に形成された溶岩ドームを噴き飛ばしたときの火口跡である。つまり、草千里ヶ浜は二重の火口跡といえることができる。



広々とした緑の中で、のんびりとウマの背に揺られて乗馬を体験するのも悪くない。阿蘇草千里乗馬クラブが運営しており、おとなしいウマたちと親かなスタッフがサポートしてくれるので安心だ（厳冬期閉鎖）。子どもからカップル、修学旅行生などに人気のスポットとなっている。三つのコースが設定され、それぞれ所要時間と料金が異なる。

3 西側の池と植生

草千里ヶ浜の二つの池のうち、東側は一週間くらい雨が降らないとなくなってしまう。これは、地下への浸透と蒸発によるものと考えられる。一方、西側の池はそう簡単にはなくならず、数カ月は水をたたえている。先に述べたとおり、それぞれの池の成り立ちが異なることから、地下の構造も異なっているであろう。



湿地性の植物が繁茂する西側の池

4 駒立山と溶岩



手前のこんもりした丘が駒立山。後方は烏帽子岳

二つの池の間にある小高い丘は駒立山と呼ばれ、草千里ヶ浜の二度目の噴火で噴き飛ばされた溶岩ドームの残骸である。この噴火で噴き飛ばされた溶岩ドームのかけらは、今でも草千里の南の部分にたくさん散らばっている。デイサイトという溶岩のかけらで、鉄分が酸化した赤い縞模様が見られるのが特徴だ。



放牧されたウシたちが草原でのんびりと草を食む光景は、阿蘇ならではの風物詩。春先に里に近い草原に放たれたウシは、夏が近づくとともに標高の高いところへ移動する。そして盛夏の八月には、約千メートルの草千里ヶ浜に上ってくる。

草千里ヶ浜の緑のじゅうたんが新しくなるのは、四月から五月頃。ここはいわゆる短草型（シバ型）の草原で、ウシたちが採食したりする草が十分にある場所を確保するためにある。

6 草原の植物

歩くことで踏圧をかけることが、植生にも大きく影響している。春はハルリンドウやフデリンドウの薄紫に、キスミレの黄色がアクセントを加える。五月下旬ともなれば、可憐なイワカガミが見られ、草千里ヶ浜の正面に位置する烏帽子岳の山腹がミヤマキリシマのピンク色に燃え立ち、よりいっそうあでやかさを増す。秋になると、清楚なウメバチソウが白い花をつける。また、ウシの食べないクララやオキナグサ、ツクシアザミなども観察できる。



烏帽子岳とミヤマキリシマ

と古い時代で、その間に浸食が進んだためである。また、烏帽子岳が形成されたあとに草千里ヶ浜が噴火を起こしたため、その噴出物が山の頂上付近まで広く覆ってしまい、そのために現在では山頂部に火口跡は見られない。



キスミレ

7 草千里ヶ浜と烏帽子岳

鳥帽子岳は草千里ヶ浜の南にある、ややとがった山である。山腹はこつこつとした感じで、これは、この山が生まれたのが約三万年前

ハルリンドウ

ウメバチソウ

歩いてみよう 草千里ヶ浜から中岳火口へ

鎌倉時代から室町時代にかけて、多くの坊舎や宿坊が建ち並び、修験僧たちが修行や生活をしていた場所である。1300年代から1500年代には、その坊舎などが火山活動によってたびたび被害を受けていた様子も多くの記録に残っている。そういった過去に思いを馳せながら歩くうちに、阿蘇山上広場に到着する。ここから火口展望台までロープウェイがあるが、もうひとつがんびりして歩こう。月面を思わせる荒涼とした景観や眼下に広がる風景を眺めながら気持ちのよいウォーキングが楽しめる。

草千里ヶ浜から中岳火口まで、約3kmの遊歩道が通じている。草原の中を歩くコースで、ミヤマキリシマの咲く季節には見事な眺めが楽しめる。所要時間は1時間足らずなので、草千里駐車場に車を置いて、ぜひ歩いてみよう。草千里ヶ浜を出てしばらく歩くと、スキー場の跡がある。昭和43年にオープンしたが、平成14年に閉鎖された。現在は中岳火口を上空から楽しめる観光ヘリコプターの基地となっていて、人気スポットの一つである。

さらに歩いて行くと、平坦な場所に出る。このあたりは古坊中と呼ばれ、

阿蘇オープントップバス

九州新幹線全線開業を機に、九州熊本観光の新たなシンボルとして、阿蘇山に、日本初の小型オープントップバス（そらめぐりん）の運行が開始された。オープントップバスとは屋根を取り外したバスのことで、阿蘇の大パノラマを体感することができる。運行区間は草千里駐車場から阿蘇山公園道路を経由して中岳火口へのルート。ぜひ「火の国くまもと」のシンボルである阿蘇山を、新たな視点で楽しんでみよう！